

## 凡例

- 一、本巻は琉球王国評定所文書、第十八巻である。
- 一、本巻は東京大学法学部法制史資料室所蔵の琉球評定所記録の一九三二号・一九三三号・一九三四号・一九三五号・一九三六号・一九三八号・一九五〇号・一九五二号・丙七号文書を収録したものである。
- 一、収録史料の表紙に付されている番号は旧琉球藩評定所書類目録（東京大学史料編纂所所蔵）の中の整理番号である。ただし丙七号は同目録にはない史料であり、整理番号は付されていない。
- 一、本巻は旧琉球藩評定所書類目録の中の整理番号に従い、通巻番号順に収録してある。また、整理番号のない丙七号は最後に収録した。
- 一、各号文書の本文見出しは、旧琉球藩評定所書類目録に従っており、史料標題と異なる場合がある。
- 一、本巻は巻頭論考、各史料解題、史料本文よりなる。各史料の解題の末尾には解題執筆者を明記した。
- 一、筆耕は法政大学沖縄文化研究所所蔵の写真複製本のコピーを用いて行い、判読の困難な部分については浦添市立図書館沖縄学研究室所蔵の写真複製本と、原本で照合した。
- 一、収録に際しては出来るだけ原史料の体裁を留めるよう努力したが、編集の都合上、以下の変更を加えた。
- 1 旧漢字は原則として新漢字に改めた。
  - 2 「里」「筑」の略字体はそれぞれ「里之子」「筑登之」と表記した。
  - 3 変体仮名ゑ（は）、ゑ（え）、ゐ（て）、ゑ（と）、ゑ（も）、ゑ（より）、ノ（して）はそのまま生かし、他は原則として平仮名に直した。
  - 4 「宛」（ずつ）の意味を示す「完」は、訂正せずそのまま用いた。
  - 5 朱書の箇所は「」でくくり区別した。

- 6 朱点および朱消し線による原文の抹消は傍点、を文字の左に付した。墨消しにより抹消された文字は原則として復原しなかつた。ただし、本文行が見えるように墨線で消されている箇所については、原型がわかるように「見え消し」の手法を用いた。また、一九三三号中、二文書にわたり、朱書き註、朱消し線、朱丸が交差する箇所がある。例外的だが、本文行を横断する斜線（朱消し線）をそのまま再現した。
- 7 明らかな誤字・脱字については、（ ）で訂正するか、または（ママ）と注記した。
- 8 判読できなかつた文字は□や□□で示し、虫損などの理由で判読不可能なものは□□<sup>（虫喰）</sup>あるいは□□と表記した。
- 9 原史料にはないが、句読点及び並列点を付した。行間の書き込みが長文に及ぶ場合は、関連文書の文末にまとめた。
- 11 付箋、貼り紙及び欄外の書き込みは、 記号を付

- して、その下か同頁の余白あるいは欄外にその内容を記した。
- 12 各号文書ごとに算用数字で通し番号を付した。
- 13 文書の内容が関連する場合には枝番号を付した。一、本巻には丙七号をはじめ、漢文史料（漢文読み下し文を含む）が多数収録されている。漢文の収録にあたっては以下の原則を採用した。
- 1 本文の字数、行数は原史料の体裁にこだわらず、他の史料と共通のものにした。ただし丙七号などは行数に若干のゆとりをもたせた。
- 2 字体については正字を原則としたが、俗字、異体字のうち通常広く用いられている漢字についてはあえて正字に戻さず、原文どおりそのまま用いた。また正字の判定は『大漢和辞典』（大修館書店）に依拠した。そのため他の史料集と字体の異なるものがある。
- 例、籟、籟、柒
- 3 訓点はすべて生かした。

一、一九五〇号の史料原文には全篇にわたって朱線が施されている。煩瑣になるため朱書きを示す括弧は省略した。

一、一九五二号「補遺（袋入四冊）」に収録された史料のうち「本琉球置目条書写」と「置目御条書写」の二点は内容がほぼ重なっている。本巻には史料本文として前者を収録し、後者との異同を傍註へで示した。

一、丙七号「漢文外国一件書類」は首里王府の外交文書に訓点・送り仮名を施した史料であり、「歴代宝案」と重複・関連する史料多数を含んでいる。本巻では丙七号と「歴代宝案」の対応が分かるように、各文書ごとの種別、差出、宛、日付、「歴代宝案」（台湾本・鎌倉本）との対応を簡単にまとめた表を作成し、丙七号の史料本文の最後に掲げた。

一、丙七号の史料原文には文章中の固有名詞に朱線が引かれている箇所が頻出する。地名は右側に、官職名は左側に、人名は文字の中央に、また国名は左側に

二重線で、それぞれ朱線が施されている。

例、福建、執事、伯徳令、琉球国

訓点と交錯しまぎらわしいこともあり、史料集としての体裁上、本巻ではすべて省略した。

一、収録史料中、一九三三号、一九三六号については『沖縄県史料 前近代3 ペリー来航関係記録2』（沖縄県教育委員会、一九八四年）を、一九三八号については「書簡和解」について（『歴代宝案研究』第八号、一九九七年）をそれぞれ参照した。

一、漢文史料の収録にあたっては、沖縄県史料編集室歴代宝案編集担当ならびに漢那敬子氏から基礎資料を提供していただいた。あわせて感謝申し上げます。

一、本巻収録の史料の活用については、東京大学法学部法制史資料室の理解と協力を得た。記して感謝申し上げます。